

あなたのお店を拝見 初心に戻りお客様のもとに足を運ぶ 農家の世代交代にも対応

有限会社松本農機

その288

先代を継ぎ社長に就任して3年、会社の経営にも意欲的に取り組み、また40代の若さで、栃木県商協の理事長に就任した有限会社松本農機(栃木県真岡市島287-5)の代表取締役社長 松本弘行氏を訪ね、お話を伺った。



社長 松本弘行氏

「いちご日本一のまち、SLが走るまち」もおか、明治45年に日本初のローカル線として誕生し、JRを経て現在第三セクターの真岡鉄道に引き継がれた真岡線の真岡駅から車で約10分、県道119号線沿いの好立地に有限会社松本農機があります。

松本社長の父である



有限会社松本農機

現社長の松本弘行氏が大学を卒業した当時はパプルのピークで、工学部卒業で就職先には困らなかったが、父からの勧めもあり他に就職せず、松本農機に入社した。



展示会直前の中古農機と整備車両

入社当時の社長の気が、学生時代の時のように楽しく充実した研修を受けることができた。

また研修した同期の中に、本紙平成26年9月号で紹介した宮城県赤羽商協の鎌田社長もいました。平成23年の震災の直後は、松本農機でも周辺で大谷石が崩れるなどの被害があり農家を一件ずつ回りお見舞いしながらも、石巻へ物資の提供等を行うなど支援活動も続け、落ち着いてからは鎌田氏を招いて震災のこと、ネット販売のことなどについての講演をして頂いたりしたそうです。また他の同期の方とも2年に1度程度集まり同期会を開くなど今も親交を深めています。

しかし実際に働いてみると、はじめのうちの仕事で農家の方と話すのも照れくさい感じがしたこともあったそうです。松本農機は約20年前、市役所近くに事務所と整備工場を持って

「いちご日本一のまち、SLが走るまち」もおか、明治45年に日本初のローカル線として誕生し、JRを経て現在第三セクターの真岡鉄道に引き継がれた真岡線の真岡駅から車で約10分、県道119号線沿いの好立地に有限会社松本農機があります。



整備工場

平成24年には代表取締役就任、先代から会社を正式に引き継ぎました。ちょうどそのころ、事務所もサービセンター内に移しました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。



整備工場

松本農機は約20年前、市役所近くに事務所と整備工場を持って

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

松本農機では、現在は農業や肥料の扱いはありませんが、「農機販売店は農機が売れること、農家に買ってもらうことが大事で、そのためにお客様を囲い込むことが必要」と松本社長は話していました。

農機販売店は、農家に買ってもらうことが大事

農機販売店は、農家に買ってもらうことが大事